

重度障害者のための創作活動と

地域支援者育成事業

認定NPO法人 アール・ド・ヴィーヴル

- ◆助成テーマ：障害者、難病患者、がん患者等の活躍を支援する事業
- ◆助成区分：地域連携（神奈川県小田原市）
- ◆助成金額：4,024千円



○ 事業概要

自らの意思で動くことに困難が伴う重度障害のある方は、日常的に家族への遠慮から孤立を抱え、我慢せざるを得ない状況がみられる。そこで重度障害のある方自身が、自己表現を通じて社会とのつながりをつくることを目的に、車いすに乗ったまま描く独自の手法によるアートワークショップの開催や特別支援学校や障害者支援施設へのアウトリーチの手法を用いたワークショップの企画、当事業で制作した作品の展覧会やアート活動のコンセプトブックの制作等、多様な手法により、障害のある方にとっての創作活動の意義や社会課題の共有を図った。

○ 事業内容・実績(アウトプット)

① 重度障害者のためのアートワークショップ

重度障害者を対象としたアートワークショップ、スタッフの人材育成を実施。ワークショップで描いた絵の展覧会を駅前で開催。

- ・6月～12月 全16回実施（目標：全15回）
- ・ワークショップ参加者 延べ80名（目標：50名）

② アウトリーチ

特別支援学校及び障害者支援施設の入所者を対象にアートワークショップをアウトリーチとして実施。

- ・年4回開催（目標：年3回）
- ・重度障害者の参加 延べ73名（目標：50名）

③ 生活介護事業所への視察研修

重度障害者のアート活動の支援スキル向上を目的に、視察研修を実施。国内で先駆的な取り組みをしている2団体を視察。

- ・参加者 合計6名（目標：7名）

④ コンセプトブック作成

当団体7年間の活動の軌跡と障害者にとっての創作表現の意義などを、関係者へのインタビューを交えて作成。

- ・2,400部作成（目標：2,000部）

○ 事業の成果(アウトカム・インパクト)

● 重度障害のある方への効果

アートワークショップでは重度障害のある方が主体性をもって表現する姿がみられた。自分の要求が通じていることに喜びと歓喜の声をあげ、表情も明るくなり高揚しているのが見て取れた。また、保護者から、毎晩あった自傷行為がワークショップを受けた夜はなかったという報告もあった。

● 地域社会の反応

小田原市と共催で展覧会を開催し、市長や行政関係者を含め、700名を超える来場者があり、タウン誌等3社から取材も受けた。事業実施後のアンケート結果から、保護者、教員、福祉施設スタッフの表現活動に対する価値観も大きく変化したことが確認できた。



○ 取り組みの工夫(事業実施体制・プロセス)

● 専門職・他団体との連携

すべてのアートワークショップに、アートディレクターを派遣し、ファシリテートを担当してもらい、生活支援員と共に全般的に創作支援に携わってもらった。今事業を通して、特別支援学校や障害者支援施設と新たな連携もでき、アート活動の意義や問題意識を共有することができた。

● 今後の事業展開を見据えた人材育成

特別支援学校や身体障害の入所施設でのアウトリーチでは、普段の学習や生活介護施設では行っていないダイナミックな活動を実践した。その実践から、教諭や支援者が障害の重い方たちに表現の力があること、アートがコミュニケーションのひとつになることを学ぶことができ、支援スキルの向上につながった。

○ 評価者より

ワークショップの開催により、創作活動を実際に体験してもらうことができた点、また、特別支援学校や障害者支援施設のように、体験の幅を広げることが難しい組織の中に入り込んで創作活動を体験してもらえた点は評価できます。また、成果物であるコンセプトブックは理念や活動内容を伝える目的には適していると考えます。

有意義な事業であるので、現在の地域を中心に、活動が更に広がることを期待します。